



# 古代備中の 文化財をたずねる

ももっち・うらっちと  
一緒に、古代備中の  
文化財を学ぼう!



岡山県マスコット ももっち・うらっち



## 「古代吉備の中心地」

720年(養老4年)に完成した歴史書『日本書紀』や平安時代初めに編集された『続日本書紀』から、かつて吉備と呼ばれた地域が存在していたことが分かっています。この吉備が分割されて備前国(岡山県東部)、備中国(岡山県西部)、備後国(広島県東部)が成立したようです。分割された時期ははっきりとしませんが、ヒントは見つかっています。飛鳥池遺跡(奈良県明日香村)で「吉備道中国加夜評/葦守里俵六□」と書かれた木簡(墨で字などが書かれた木の札)が出土しました。ここにある「吉備道中国」は備中国を指すと考えられます。木簡に年代は書かれていませんでしたが、一緒に見つかった土器などから7世紀末のものとなりました。つまり、この資料から遅くとも7世紀末には備中国が成立していたことが言えるのです。さらに、713(和銅6)年には備前国から美作国が分国されました。なお、備中国は都宇郡、窪屋郡、賀夜郡、下道郡、浅口郡、小田郡、哲多郡、英賀郡の8郡からなり、現在の笠岡市・井原市・総社市・高梁市・新見市・浅口市・早島町・里庄町・矢掛町の全域、岡山市・倉敷市・真庭市・吉備中央町の一部に当たります。

吉備の中心は岡山市から総社市にかけての地域だったようです。この地域には、全長約360mで全国4位の規模を誇る造山古墳(岡山市・5世紀前半)、全国9位で全長約280mの作山古墳(総社市・5世紀後半)がわずか3km程の距離にあり、両者の中間地点のこうもり塚古墳(総社市)は吉備の三大巨石墳の1つで、6世紀後半では県内最大の全長約100mです。こうもり塚古墳の東隣には、奈良時代に備中国分寺が建立されました。国分寺は国の政策として国分尼寺とともに各地に建てられた寺院で、各国でも主要な古墳の近隣に位置することが多く、当時の国の中心地を選んで国分寺・国分尼寺の建立が進められたのでしょう。

現在の奈良県におかれた都で中央集権体制が整うと、各国をおさめるための役所である国府が整備されました。備中国



総社市御所にある「御所宮」石碑

府は、地名から総社市国府・御所周辺に存在したと推測されていますが、まだ確実な痕跡は確認されていません。国府の役人である国司は都から派遣されました。また、都と地方の行き来をスムーズにする必要から、「七道」と呼ばれる道が整備されます。岡山県南部を通る山陽道は、九州と都を結ぶ道として七道のなかで最も重要視されました。

吉備津神社（岡山市）の存在も重要です。平安時代後期、国ごとに地域内の神社を格付けするようになりましたが、備中国の一宮は吉備津神社です。分割後の各国の一宮は、備前国が吉備津彦神社（岡山市）、備後国が吉備津神社（広島県福山市）、美作国が中山神社（津山市）で、中山神社以外は吉備津彦命を祀ります。

また、平安時代には諸国に派遣された国司が参拝しやすいように、国内の神社に祀られている神を1か所に集めた「総社」と呼ばれる神社が作られます。備中国総社宮（平安時代の総社跡は市指定史跡）は総社市総社に所在し、市名のもとになりました。

南北に長い備中国には、さまざまな特産品があったようで、10世紀初めの『延喜式』という記録から、備中国の人々は、鉄、桑、絹、染めた糸、木箱、ごま油、染料に使う茜、漆、鯛、栗、大豆、小豆、鹿の皮などを納税していたことがわかります。また、納税する時に荷札とされた木簡には塩の字が見え、瀬戸内海の海水を利用した塩作りも盛んだったことがうかがえます。

それでは備中国に残る飛鳥時代から平安時代の文化財を訪ねてみましょう。



吉備津神社（岡山市）



総社宮（総社市）

# 鬼城山 (総社市黒尾・奥坂〈国指定史跡〉)



復元された西門付近の様子

吉備高原の南端、標高397mの山に築かれた古代山城で、一般的には鬼ノ城きのじょうと呼ばれています。山上から瀬戸内の島々や四国山地まで見渡せるほど眺望ちようぼうに優れています。

鬼ノ城は、朝鮮半島における白村江はくそんこうの戦い(663年)後に整えられた軍事施設の1つとも考

えられています。そのことを物語るかのように、全長約2.8kmの城壁で周囲の守りを固めていました。城壁は丹念どるいに突き固めて築いた土塁(土の壁)が主体で、石垣を持つ場所もあります。城壁には4か所の城門のほか、谷部には水門を作って水の抜け道としました。城内では7棟そ せきたてものの礎石建物がみつき、倉庫と管理建物という役割が想定されています。城内で使用する鉄製品を作ったあと(鍛冶場かじば)も見つかり、注目を集めました。古代山城での鍛冶場の発見は、鬼ノ城が全国初です。

柱の跡が残る礎石→

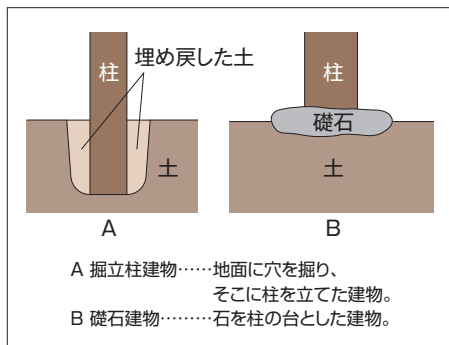


発掘調査中の礎石建物(高床倉庫)  
写真提供:岡山県古代吉備文化財センター



城内で見つかった飛鳥から奈良時代の土器  
 写真提供:岡山県古代吉備文化財センター

これまでの発掘調査によって多くの土器  
 が出土しており、特に飛鳥から奈良時代（7  
 世紀後半から8世紀）と、平安時代（9世紀  
 から11世紀）のものが多く見つかりまし  
 た。古い時期のものは鬼ノ城で使用した土  
 器で、新しい時期のものは城が衰退した後  
 に建立された寺院で使用した土器と考えら  
 れます。なお、平安時代の建物として掘立柱  
 建物が見つっています。



掘立柱建物と礎石建物

**鬼城山全体図**

北門、東門、南門、西門、角楼、第0水門、第1水門、第2水門、第3水門、第4水門、第5水門、鏡泊場、礎石建物群

**周辺の施設**

**鬼城山ビジターセンター**

- 観覧時間 午前9時～午後5時【入館は午後4時30分まで】
- 休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日) 連休に月曜日を含む場合は、連休明けの平日) 12/29～1/3
- 入館料 無料

**周辺図**

鬼城山、鬼城山ビジターセンター、ゴルフ場、砂川公園、砂川、岡山自動車道、岡山県立大学、吉備線、岡山駅、宝福寺、石井線

# 備中国分寺跡 (総社市上林〈国指定史跡〉)



現在の国分寺

五重塔で有名な日照山国分寺ですが、ここは741年(天平13年)、聖武天皇が仏教の力で国を守ろうとして建立した備中国の国分寺があった場所です。

発掘調査によって現在の山門の南側には、かつて南門と中門の2つの門が存在したことが確認されました。また、現在の本堂前には、塔らしき建物が建っていたことも判明しています。その他にも井戸跡などが見つかっています。寺域を囲む築地も確認されており、東西約160m、南北178mと現在より広い敷地と分かりました。

出土した瓦から11世紀頃で一時衰退したと考えられています。



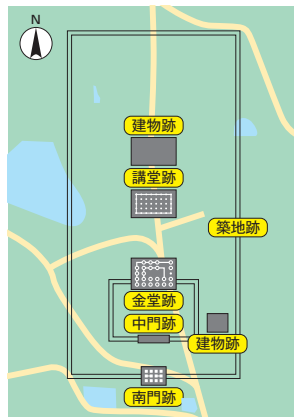
境内にある奈良時代の礎石  
(地蔵の下の石)

# 備中国分尼寺跡 (総社市上林・宿〈国指定史跡〉)



備中国分尼寺跡(金堂跡)の礎石

備中国分寺跡の東約600mには、備中国分尼寺跡があります。国分寺とともに建立された寺院で、建物の土台である礎石が当時をしのばせます。築地に囲まれた東西108m、南北216mが寺域で、南門・中門・金堂(仏像を安置する建物)・講堂(お経の講義や説教をする建物)が一直線に並んでいたようです。



備中国分寺跡・国分尼寺跡のすぐ南側を古代の山陽道が通っていたようです。



備中国分尼寺跡建物配置



# 関戸の廃寺跡

(笠岡市関戸〈県指定史跡〉)

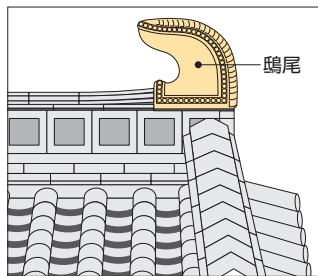


関戸の廃寺跡の塔心礎

写真提供:笠岡市教育委員会

笠岡市立新吉中学校の南約1kmの大野呂川東岸にあります。7世紀後半に建てられ、奈良・平安時代に修理や再建を繰り返したようですが、11世紀前半の火災で衰亡し、12世紀前半には完全に廃絶したと考えられます。

寺域は一辺約130mの方形で、そこに塔と金堂を南北に並べ、周囲に回廊(廊下)を巡らせていたことが発掘調査で分かりました。瓦のほか鴟尾(宮殿や寺院の屋根を飾るもの)、塔の相輪(屋根から突き出た金属製のもの)、瓦塔(焼き物の小さい塔)などが出土しています。



鴟尾復元図

## 周辺図





# 秦麿寺 (総社市秦〈県指定史跡〉)



秦麿寺の塔心礎

ほうふくじ  
宝福寺の西約1.6kmの高梁川西岸にあります。7世紀前半に建立されました。

現在は小さなお堂の横に塔の心礎がみえるだけですが、当初は築地に囲まれた東西109m、南北109mもしくは163mが寺域で、金堂などの建物が建ち、回廊が巡っていたようです。このような本格的な仏教建物を持つ寺院としては、岡山県内では最も古いものの1つです。いろいろな模様をもつ軒瓦のほか、押出仏が注目されます。押出仏は型に粘土を押しつけて作った仏像で、如来像や菩薩像など数体分の破片が見つかりました。釘が残るものがあり、建物などの壁に取り付けていたことがわかります。

このほかにもある古代の寺院跡

## 八高麿寺 (倉敷市真備町妹 県指定史跡)

発掘調査は行われていませんが、塔の心礎が残っています。見つかった瓦から8世紀前半～中頃に作られたことが分かりました。

## 日畑麿寺 (倉敷市日畑 市指定史跡)

講堂や金堂と思われる建物跡を発掘調査で確認。ここで使われた瓦は倉敷市の二子御堂奥築跡群で焼いたものです。

## 栢寺麿寺跡 (総社市南溝手 県指定史跡)

発掘調査で塔の基壇を確認。現在は塔基壇周辺の整備が進み、塔心礎の上には江戸時代の十三重石塔が立っています。

## 周辺図



# 大谷・定古墳群 (真庭市上中津井〈国指定史跡〉)



大谷1号墳

写真提供:真庭市教育委員会

真庭市立中津井小学校の南約500mにある大谷1号墳、南東約400mにある定古墳群(定東塚古墳、定西塚古墳、定北古墳、定4号墳、定5号墳)は、いずれも飛鳥時代(7世紀)に築かれた方墳(四角い形の古墳)です。6基の古墳は、<sup>れっせき</sup>列石とよばれる石の囲いをめぐらせ、階段状の構造をするという共通した特徴を持ちます。築かれた当時の様子は、発掘調査の成果をもとに復元された大谷1号墳でみることができます。

ピラミッドみたいだね!



定西塚古墳と定東塚古墳

## 周辺図



# 下道氏墓 (矢掛町東三成〈国指定史跡〉)



下道氏墓

井原鉄道三谷駅から西に約700mにあります。1699年(元禄12年)、この地を耕していた農民が青銅製の壺(骨壺)を発見しました。銅壺は小さな石室内にあり、周囲には木炭がたくさん詰められていたそうです。銅壺の蓋に刻まれた文字から吉備真備の祖母の骨壺とわかりました。708年(和銅元年)のものです。

下道氏とは、真備周辺を本拠地とする有力な一族。この一族の吉備真備は、右大臣まで出世しました。



銅壺〈国指定重要文化財〉  
写真提供:岡山県立博物館



※国道からの案内標識は「下道氏公園」と出ています。

# 大飛島洲の南遺跡 (笠岡市大飛島〈市指定史跡〉)



大飛島洲の南遺跡の出土品(文化庁所管・笠岡市教育委員会所蔵)

写真提供:岡山県立博物館

笠岡市沖合約10kmにある大飛島は、瀬戸内海を行き来する船が潮待ちする島として知られています。その歴史は古く奈良時代までさかのぼるようで、島からは当時の祀りに使った道具が多く見つかりました(224点は<sup>おおひしまさいし いせき</sup>大飛島祭祀遺跡出土品として国指定重要文化財)。緑色、褐色、白色で彩られた奈良三彩の壺は、当時の最高技術で焼かれた土器です。青銅鏡や青銅鈴、和同開珎(お金)なども出土しています。これらは、海上交通の安全を祈って奉納されたと推測されます。



大飛島の砂州(大潮干潮時、1987(昭和62)年)

写真提供:笠岡市教育委員会



# 安養寺裏山経塚群 (倉敷市浅原〈県指定史跡〉)



安養寺経塚群(草間に石列がのぞきます)

平安時代、末法思想が広まったため、正しいお経を後世に残そうと紙や粘土板、瓦などに書き写したものを地中に埋めることが流行しました。この施設を経塚きょうづかといいます。1937年(昭和12年)、安養寺毘沙門堂びしゃもんどうの裏山で発見され、翌年には発掘調査が行われました。経塚3基が見つかり、第1経塚からは瓦経208枚、絵瓦5枚、焼き物の宝ほう塔1基などが出土しています(国指定重要文化財)。また、1958年(昭和33年)に発掘調査された第3経塚からは「応徳三年」と刻まれた瓦経が見つかり、1086年頃の造営とわかりました。



阿弥陀如来を刻んだ絵瓦  
写真提供:倉敷市教育委員会

末法思想とは、お釈迦さまが亡くなってから2,000年経つと、仏教の力が衰えて、世の中が乱れるという考え。日本では1052年からその時代に入るとされました。



## 周辺図



# 古代の産業～鉄・塩・焼き物

## 鉄

吉備地域では古くから鉄生産が盛んでした。現在、日本で最も古いと言われる製鉄遺跡は、干引力ナク口谷製鉄遺跡（総社市）で、6世紀後半（約1,450年前）のものと考えられます。上神代狐穴遺跡（新見市）でも6世紀末頃の製鉄遺跡が確認されています。古代には鉄鉱石や砂鉄を原料としていました。燃料には木炭を使いますが、それを作った炭窯も見つかります。当時の炭窯には側面に複数の穴が開いた特殊なものがあり、総社市の水島機械金属工業団地組合西団地内にある遺跡公園で復元された炭窯を見学できます。



復元炭窯

## 周辺図



## 塩

日本における塩作りの歴史は縄文時代までさかのぼり、瀬戸内地方でも弥生時代中頃から始まっていたようです。当時は、濃度を高めた海水を土器の中で煮詰め、水分を蒸発させて塩とする土器製塩という方法で作っていました。奈良時代にも土器製塩は続きますが、この頃から鉄釜の使用も始まったようです。塩は土器に詰められ、焼きしめて遠くに運ばれることもありました。美作国府跡（津山市）や尾崎遺跡（美作市）で焼塩土器が見つかりますし、平城京跡（奈良県）では焼塩土器に加えて、備中国から塩が税として運ばれたことを示す木簡も見つかっています。



左…三斗安曇部押男

右…備中国浅口郡船穂郷調塩

写真の木簡には、浅口郡船穂郷の安曇部押男さんが塩3斗を調(税)として納めることが書かれています。



平城京跡出土の木簡  
写真提供:奈良文化財研究所

## 焼き物

古墳時代には須恵器と呼ばれる硬い質の焼き物が焼かれるようになりまし  
 た。須恵器を焼いた窯跡は、丘陵の斜面に掘られた小さなトンネルのような  
 構造で、総社市末の奥、倉敷市二子、同市玉島陶などで多く見つかっています。焼かれた須恵器  
 には、椀や皿、壺などさまざまな種類がありました。飛  
 鳥時代には寺院の瓦も焼かれるようになりましたが、当  
 初は須恵器の窯を利用しており、寒田瓦窯址（倉敷市・  
 市指定史跡）では瓦と須恵器が一緒に出土しています。



寒田瓦窯址



## 周辺図



## 古代の道

奈良時代には都と地方を行き来する交通路が整  
 備されました。「七道」と呼ばれる主要道の1つで  
 ある山陽道は、外国使節が通る道として重視され  
 ました。山陽道には30里（約16km）ごとに駅家と  
 いう施設が設けられ、馬の乗り継ぎや宿泊施設と  
 して利用されました。毎戸遺跡（小田郡矢掛町）は  
 発掘調査で駅家跡と推測された貴重な遺跡です。

## 周辺図



毎戸遺跡で見つかった  
 「馬」と刻まれた土器  
 (駅家の存在を示す)



写真提供:岡山県古代吉備文化財センター



毎戸遺跡の調査地には、井原鉄道が通っています

## 所在マップ



### 1 鬼城山

総社市黒尾・奥坂

### 2 備中国分寺跡・備中国分尼寺跡

総社市上林 総社市上林・宿

### 3 関戸の廃寺跡

笠岡市関戸

### 4 秦廃寺

総社市秦

### 5 大谷・定古墳群

真庭市上中津井

### 6 下道氏墓

矢掛町東三成

### 7 大飛島洲の南遺跡

笠岡市大飛島

### 8 安養寺裏山経塚群

倉敷市浅原

### 9 寒田瓦窯址

倉敷市玉島陶

発行日 平成28年2月5日

発行 岡山県教育委員会

編集 岡山県教育庁文化財課

〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6

電話086-226-7601(直通)

協力 岡山県立博物館、岡山県古代吉備文化財センター、笠岡市教育委員会、倉敷市教育委員会、因勝寺、奈良文化財研究所、文化庁、真庭市教育委員会、岡山県立岡山城東高等学校、岡山市立三門小学校、岡山市立芳泉中学校

表紙写真 右上：岡山市吉備津神社 左上：銅壺(写真提供：岡山県立博物館)  
右下：阿弥陀如来を刻んだ絵瓦(写真提供：倉敷市教育委員会) 左下：復元された鬼城山西門